

令和元年度第2回総合教育会議

○開催日時 令和元年11月25日(月) 午前10時43分～午後12時20分

○開催場所 行方市役所 北浦庁舎2階 第2会議室

○出席委員

行方市長	鈴木 周也
教育長	横田 英一
教育長職務代理者	石崎 光春
委員	邊田 益男
委員	宮内 淑人
委員	滝 恵美子

○事務局出席者

教育部長	宮内 民雄
学校教育課長	八木 峰男
生涯学習課長	浜田 健太郎
生涯学習課参事	根本 聡美
学校教育課課長補佐	野原 文雄

○市長部局出席者

こども福祉課長	中澤 祐子
健康増進課課長補佐	出沼 潤一

1. 開 会

2. あいさつ

3. 付議案件

- (1) 歴史資料整理事業による空き教室を利用した民俗資料・民具等の展示について
- (2) 令和2年度「生活習慣改善」推進事業計画について
- (3) 令和2年度教育費予算要求状況
- (4) その他

4. その他

5. 閉 会

○議 事 録

1. 開 会

宮内部長から開会の宣言がありました。

2. あいさつ

鈴木市長からあいさつがありました。

横田教育長からあいさつがありました。

3. 付議案件

(教育長) 議事録署名委員に石崎委員を指名します。

(1) 歴史資料整理事業による空き教室を利用した民俗資料・民具等の展示について

発 言 者	発 言 内 容
邊田委員 浜田課長 邊田委員 宮内部長	<p>確認だが、民俗資料展示についての意見を聞きたいということで間違いないか。展示についての意見ということで願う。</p> <p>経緯や全体の構想はどのようになっているのか。</p> <p>展示に至った経緯について、耐震化されている津澄小学校に展示スペースを作ったかどうか、という声があり、北浦幼稚園と教育支援センターポプラが津澄小学校内に置かれていなかったことから、構想を作った。玉造町時代から継続して収集しており、古文書等の整理は行っていたが、民具等については放置されている状態で、整備できていない状況だった。子どもたちの社会科の授業で有効に活用したほうが良いのではないかと、との意見があり、教室のスペースもあることから、まず民具についてのみ使えるものをピックアップして展示するというので、提案させていただく。手作り感のあるものになる可能性もあるが、財源を考慮しながら進めていきたいと考えている。</p>
邊田委員	<p>学習のために利用するのは良いことである。時代をある程度定めたいうえで、昭和初期あたりまでのものをきちんと揃える必要があるだろう。神栖市の資料館は、コンパクトであるが、まとまっている。きちんとした目的があれば、小さくても勉強になる。</p> <p>資料館を作るにあたり、人的に大変になるのではないかと。市職員は歴史専門家ではないため、調査や判断がきちんとできれば良いが、難しい部分もある。丁寧に進めてほしい。50年、60年の間や世代によって、ものに対する感覚が大きく変化しているため、民具の使用時代を明確する必要がある。</p>
滝委員	<p>提案だが、実際に民具を使って農業をしていた方にボランティアをお願いして、具体的な使用方法を説明してもらうのは、お互いにとって良いことだろう。また、廃棄するものについては、判断は難しいと思うが、大胆な廃棄をお願いする。</p> <p>民具の展示は作ったほうが良いと思う。小学校3年の社会科の「昔暮らし」という単元で学習するため、現職の頃は、潮来市立図書館やかすみがうら市の資料館を見学した。実際に展示されていたのは、昔自分の家にあったようなものであったので、子どもたちの学習に必要なものは、呼びかければたくさん集まるだろう。収集する中で、不要なものもあると思うが、丁寧な選別を行っていただきたい。津澄小学校は南向きで明るく、駐車場の場所も広く取れるため、良い資料館ができるだ</p>

宮内部長	<p>ろう。昔の鋤や鍬、やかんなどの学習で必要なものを、まだ保管している家庭は少なくはないと思う。</p> <p>集まったものについては、現在、元大和第二小学校内で保管している。すでに多くの民具が集まっており、それらを整備するにも良いタイミングであった。また、北浦第2グラウンドのプレハブ小屋内でも保管しており、葬式文化関係品や石棺などがあるため、量的には十分だと考えている。</p>
宮内委員	<p>担当者が実際に見て、展示品や資料の事前調査を行うことは大切であると思うので、そこに予算を使っていただきたい。</p>
滝委員	<p>当日子どもたちが訪れた際の説明員について、市内に郷土文化会の方々がいると思うが、積極的にやってくれるだろうと思う。以前学校から依頼した際も熱心に説明してくださったが、授業時間内で終わらなかった経験があるため、時間配分は注意をお願いします。</p>
邊田委員	<p>危険な面もあると思うが、子どもたちが実際に触れて、何か体験できるものが良いのではないかと思う。</p>
鈴木市長	<p>時代背景をどの範囲で考えているのか伺いたい。江戸時代より前のものはないようなので、江戸時代末期から昭和までの範囲のもので良いのかを確認する。</p>
浜田課長	<p>専門家ではないため明確な年代をお伝えできないが、今現在保管されているもので、江戸時代末期から昭和戦前までのものを陳列したいと考えている。そこから現在への紐づけとして、例えば、コンバインのもとになる民具や乾燥機の起源の道具であるなどの説明を加えた展示を行いたいと考えている。</p>
鈴木市長	<p>話からは農業関係の道具が中心に集まっているような印象を受ける。行方市は漁業も盛んであったので、江戸時代末期のものまで残っているかは不明だが、漁業関係の道具が残っている家庭もあるだろう。その他にも消防関係の道具も出てくるのではないか。主に収集される道具は農具、漁具、消防具の3種類だと思うが、無制限で収集してしまうと膨大な種類の道具が集まってしまうので、まずはどのような方向性の展示を行うか、コンセプトをはっきりさせていただきたい。</p>
浜田課長	<p>漁業関係の道具について、明確な名前を述べることはできないが、「ずうけ」等の道具で古いものがあつたことを記憶しているので、探してみる。船関係のものについては、専門ではないため、回答は難しい。</p>
邊田委員	<p>船などはドックや白浜のあたりに放置されているものが使えるかどうかだろう。私が子どもの頃と昭和初期では、道具に大きな変化はないだろう。子どもの頃は、田んぼは人の手や牛でうない、「ずうけ」や網も使った記憶があるので、そのような道具はあると思う。昭和初期の物が望ましいが、もう少し現代に近い道具が多いかもしれない。民具の定義についてはどうか。定義は特になく、道具があるから民具というのだと思うが、調べてみてほしい。</p>
鈴木市長	<p>漁具等はふれあいランドにもある。どこまでの範囲かを定めて進めていけば、次の展開にも移りやすい。農具や漁具などコンセプトだけをまずはっきりさせ、分類できれば良いと思う。船などは北浦などに沈めているものもある。江戸時代末期から昭和時代くらいであれば、水産加工が伸びている地区もあるので、その道具は残さなければならないし、水産教室をやっているのであれば、子どもたちの覚えておいてもらうことも方法かと思う。農業の道具は形もわかりやすく、見やすいので、子どもたちも受け入れやすいだろう。私のイメージでは、コンセプトを3つ程度に</p>

	<p>ざっくりと分類すると良いのかなと思う。水産教室や農業体験で小学生が勉強して疑問を持つのは、食べ物や生活に関することだと思うので、食育や生活習慣に繋がるだろう。漁業者の減少は危惧している部分ではあるが、必要な場合は声掛け等を行っていただきたい。</p>
--	--

(2) 令和元年度「生活習慣改善」推進事業計画について

発言者	発言内容
邊田委員	<p>朝食摂取率について、自分が見た数字より悪く、驚いているので、この計画を実行することは非常に良いと思う。以前、教育長がおっしゃっていたように、「早寝早起き朝ごはん」は基本的な生活習慣であるため、それをリーフレットにすることは良いと思うが、学校ごとではなく、行方市としてスローガンをつくり、声掛けを実施していかなければ結果は表れないだろう。強引ではあるが、朝食摂取率と不登校や教育力には相関性があると考えているので、そういった部分の改善にも繋がるこの事業には、賛成である。</p>
根本参事	<p>質問だが、資料にある親子自然体験教室の規模はどのくらいか。</p> <p>子ども会連絡協議会と連携を取りながら進める方向で考えているため、親子で参加してほしい思いもあるが、親子ではなくても参加できるように考えている。現在、子ども会で実施しているキャンプがあり、40名ほどの参加者がいるので、体験教室についても同規模で実施できるように進めていきたい。人数はまだ具体的ではないが、希望があった者については、極力受け入れていきたいと考えている。</p>
邊田委員	<p>40人規模とはあくまで別事業での規模なので、参加希望者はすべて受け入れる方向で考えるべきだと思う。「早寝早起き朝ごはん」のリーフレットを配ることは良いが、配布時期が7月では遅いのではないか。可能であれば、4月・5月のPTA総会や学級参観等での配布を目標にしていきたいが、考え方も立場によって異なると思うので、検討をお願いします。</p> <p>第3日曜日の「家庭の日」について、なぜ「ノースマホ」はないのか気になった。おそらく、「ノーゲーム」の中にスマホも含まれているのだろうが、つい最近に起きた小山でのSNSの事故を考えれば、入れることを検討すべきだと思う。道徳も大切だが、基本的な生活習慣をきちんとしなければ改善しない。子どもの生活習慣を正すことで、親の生活習慣が改善されていく例もある。</p>
宮内委員	<p>非常に良い事業計画であるので、積極的に進めていただきたい。質問だが、親子自然体験教室の講師である東北大学の瀧教授とはどのような方なのか。</p>
横田教育長	<p>瀧教授は、東北大学加齢医学研究所のドクターであり、全国的に有名な川島隆太先生と同じ研究所で研究を行っている。子どもの脳について研究しており、子どもにとって生活習慣、特に朝ごはんと睡眠が大切で、欠かしてしまうと身体の健康だけでなく、脳の発達が芳しくないとの報告がある。</p> <p>日本人は意欲や自己有用感が薄いといわれているが、これらは幼少期の家庭教育に関係しており、親が自然の中で、子どもと一緒に遊んで楽しむ様子を見せることで子どもの意欲は変化する。「勉強しろ」と何度も言うよりも、子どもの前で楽しい体験を見せるだけで脳が発達し、子どもの興味関心や意欲が持続的に高まる。このような研究をしている先生に加わっていただき、共同でリーフレットを発信できればと考えている。</p>

滝委員	<p>全体的な流れとして、とても良いのでぜひ進めていただきたい。生活習慣の改善は幼稚園時代から学校教育として行うと思うが、他の課と連携して、乳児検診あたりから進めていくのも良いと思う。発達に影響があるということ具体的に話す必要があるが、保護者の中には、わかってはいるけどなかなか出来ない、という方もいる。起きたら朝日を浴びせることや朝ごはんを少しでも食べさせること等は乳児あたりから呼びかけていかなければ、習慣づけることは難しいのかなと思う。保護者は就学時健康診断の時期に話を聞くと思うが、そのころには子どもたちの生活習慣はできあがっているだろう。</p> <p>肥瘦者の割合について、漠然と聞いた話なので、今からの話は信頼性が無いと思うが、学校の統廃合によって、登下校がスクールバスになったため、朝の運動量が減少するという話を聞いた。現在は朝の5分間運動はなくなってしまったのか。</p>
横田教育長	<p>朝の運動はなくなっている。麻生小学校では、登校後、自主的に外で運動している児童の様子は見受けるが、強制的に運動することはしていない。業間休みの中では、実施している学校もある。</p>
滝委員	<p>全校児童と一緒に走るということは数的に無理かと思うが、学年ごとやブロックごとに分けるなど工夫して、とにかく運動できる時間を増やすべきである。家庭で運動するのは難しいと思うので、せめて学校の中で運動を習慣づけなければ、肥満の児童は増加傾向になるだろう。</p>
横田教育長	<p>行方市の体力テストの結果を見ると、投げる運動や飛ぶ運動が比較的低い。日常生活で投げる・飛ぶ動きは少なく、学校以外に外で遊ぶ機会も少ないため、意識的に取り入れるよう、小学校では機会を作り、業間休みや昼休みに実施している。中学校では、運動部活ではない生徒もいるので、週に一回程度全員で走る時間を取り入れている学校もある。玉造小学校は人数的に全員で走ることは難しいが、そのほかの学校は全員で走ることができる。</p>
滝委員	<p>経験から、手首のスナップの力が弱い児童が増えていると感じている。先生方が工夫して、的あてゲームや投げ方を工夫するゲームをすることで、2～3年継続すれば、体力テストの結果に表れてくる。大人数で限られた場所の中で行うのは難しいと思うが、工夫をしながら時間をかけて取り組まなければ体力テストの結果には表れないので、大変かと思うが学校への呼びかけていただきたい。</p>
石崎委員	<p>「家庭の日」について、「ノーゲーム・ノーテレビデー」ということで、以前は、ゲーム機を使って遊ぶ子どもが多かったが、最近はスマホ等の端末で遊んでいる。子どもだけでなく、大人でもスマホを手放せない方が多いため、「家庭の日」では大人も含めて、なるべく触らないことを心掛ける日にすべきである。キャッチコピーはこのままで良いので、内容の中にそういったことも含めていただきたい。</p>
出沼課長補佐	<p>この事業を推進するためには、各課の連携が必要である。多く意見の挙がった、就学前からの働きかけが重要である、という点は我々も同様だと考えている。健康増進課では、妊産期の母親に対してや乳児期の健康診断に合わせて歯磨き指導や管理指導を行っている。これまでに実施した事業の実績がそれぞれの課であるが、連携を強めることでより大きな成果を挙げることのできるの、引き続きよろしく願います。朝食摂取率や肥満率については、保護者の子育てによる影響が大きいため、親が朝ごはんを用意する習慣を身に着けているべきだと考えている。パンフレットは、保護者も見えて理解できる内容になるよう、考えていきたい。</p>

<p>横田教育長</p>	<p>スクールバス化による運動量の減少については、以前から問題になっていたが、改善に向けた対策について、学校の協力をいただければありがたい。</p> <p>数値について、資料に掲載されているのは子どもが全国学力学習調査で回答した結果であるが、学校が保護者に対しアンケートを取った結果は高かった。子どもと親それぞれで行った調査や行方市で独自に実施した調査では結果の数値が異なる。子どもが回答した結果が、全国や県の平均より低いとなると特に力を入れていかなければならない。</p>
<p>邊田委員</p>	<p>日常生活の中で、子どもが親に怒られている様子を見かけることがあるが、両親との関係、特に母子関係は重要だと感じている。自分が子どもの頃は、怒られることが当たり前で、褒められた記憶があまりない。しかし、時代が変われば子育てのやり方も変化するので、市で取り組む場合には、時代に合った子育てという点も意識していただきたい。怒ることが必要な場合もあるが、将来的に子どもの不登校の原因になることも考えられる。</p>
<p>鈴木市長</p>	<p>朝食摂取率について、回答者が子どもか保護者かによるデータの違いはあると思うが、前段階として、両親が働いている家庭なのか、3世帯家庭なのか等でも違ってくるだろう。例えば、両親が朝8時までに職場に行かなければならない場合、子どもを送り出すまでのどのタイミングで朝ごはんを食べさせるのか。課題解決のためには、ここだけの完結にはせずに、保護者の各職場に協力を求めていかなければ、生活様式は改善していかないと考えている。そのためには、社会的な場で話をする機会を多く設けなければならないが、家庭によってズレが生じ、親が職を失うような事態はあってはならないため、ある程度で良いので、各家庭の状況をデータ化していただきたい。急ぐ必要はなく、再来年度のスタートになっても構わないので、そのような点を整えてほしいと思う。生活実態を効率よく把握するためには、関係課との連携をより強めなければならない。不登校の話が挙がっていたが、DVや幼児虐待等に行き着く部分であるので、先駆的に整えていただきたい。</p> <p>肥瘦者の分布について、スポーツ推進室との協力が必要である。体育をする機会はいろいろあると思うが、スポーツ少年団には保護者が必ず同行するので、そこに課題のPRをしていく必要がある。改善のためにスポーツ推進室を活用して、働きかけを行っていただきたい。</p> <p>虫歯について、歯科医師会連絡協議会の中でも必ず話が挙がるが、歯科医師会でも気にしている案件である。健康増進課の範疇になるが、子どもへの指導よりも、保護者自身が歯磨きをきちんとできていない場合があるため、親や高齢者などへの指導が必要だと考えている。歯科医師は、歯を見れば患者の生活環境をある程度把握できるため、歯科医師会を中心に親に対しての講習を開いていただき、自分の歯磨きを見直してもらうべきである。昨今、歯周病を取り上げる番組を多く見かけるが、歯茎からばい菌が入ることで、心筋梗塞や脳卒中のリスクに繋がるため、健康増進課の高齢者対策にも通ずる部分である。幼児期から指導は行うべきであるが、大人がきちんと歯磨きができなければ、子どももできるようにはならないので、まずは親に対して指導を行うことが効率的である。健康増進課と連携して、時間を作っていただきたい。</p> <p>リーフレットについて、準備の段階で市長部局と教育委員会部局で打ち合わせを行っていききたい。</p>

横田教育長	<p>「家庭の日」について、第3日曜日に「ノーゲーム・ノーテレビデー」を実施とのことであるが、最近の子どもたちはテレビを見ることは少なくなり、ネット動画などをスマホやタブレット端末で見ている機会が多いようなので、キャッチコピーをそちらに寄せた方が良いかと思う。また、第3日曜日と設定されているが、ハードルが高いのではないか。日曜日はどうしても情報取りに番組を見てしまうので、個人的には第3水曜日が良いのではないかと思う。学校に行っている間はテレビを見ないので、登校前と帰宅後を注意すれば目標を達成することができる。水曜日の理由としては、週の真ん中で慣れてきた頃であるので、意識を作るためにはちょうど良いだろうと考えている。</p> <p>リーフレットのタイトルについて、「早寝早起き朝ごはん」とあるが、行方市のものとして、新たな名前が良いと思う。今の子どもの実態に即して変更した方が良くと思うので、今後、検討していく。健康増進課との連携も含め、プロジェクトチームとして、まずは生涯学習課ができることを先行して進め、令和2年度に間に合わなくとも、市として取り組んでいく体制で進めていきたい。</p>
-------	--

(3) 令和2年度教育費予算要求状況

発 言 者	発 言 内 容
邊田委員	<p>学校教育課については、すべてが不可欠な予算である。教材購入事業は平成30年度から実施しているが、学校において教材の購入は不可欠であるので、増やせという意味ではないが、来年度すぐにはではなくて良いので、学校の要望を聞いていただくようお願いする。</p> <p>生涯学習課の図書館について、行方市立図書館にはまだ行ったことがないが、幼児を対象にしているイメージが強くあり、大人を対象にしている印象がない。ブックスタートを実施していない市町村がある中、素晴らしいとは思いますが、幼児、高齢者、働いている年代の方々も対象でなければならぬ。現役の頃は、図書館関係に携わっており、当時は、図書館に企業関係の本を入れるという話が出ていたが、現在はどうか。図書館そのものを建て替える時期でもあり、何か考えなければならぬだろう。市報に掲載されている図書館情報を見ても、あまり興味を持つことはできず、借りたい人は少ないと思うので、何か考えていただきたい。</p> <p>各事業の名称について、教材購入事業や茨城国体選手強化支援事業などは、今後変えていく必要があるだろう。国体選手強化事業は、優秀な選手に支援を行う事業だとは思いますが、名称に茨城国体とあると、昨年度の大会だろう、と疑問を持つ人もいます。教材購入は学校において当たり前のことであるので、事業とするほどではないと思う人もいます。すでに決まっていることであるので、すぐに対応しろとは言わないが、公務員として適切な事業名を考えることもひとつ大切なところである。</p>
浜田課長	<p>図書館について、企業関連の書籍ということで意見をいただいたが、現在、システムを利用して推薦図書を選び購入している。予算内での推薦図書の購入になり、企業関連図書は特殊なものであるため、それらの点を踏まえて、今後検討していく。茨城国体選手支援事業については、誤って資料に含まれているが、ご指摘の通り、今年度で終了する事業である。</p>

(4) その他

発 言 者	発 言 内 容
邊田委員	<p>ICT 事業に関して、最近の新聞を見ると、国で4千億円をかけて、小学校5年生から中学校3年生までにタブレットの配布する、という話が出ている。4千億円もかけて良いかは別にしても、反対する理由はないので、配布されれば良いなと思っている。大人だけでなく子どもたちにとっても、インターネットは非常に大きな存在であり、学校では教えられない部分でも知りたいことをすぐ調べられるので、一人一台 PC はぜひ取り組んでほしい。安いものではないため、財政面はかなり厳しいと思うが、国でできないのであれば、市として取り組まなければならない時代になりつつある。自治体での地域格差はあるが、乗り越えていってほしい。</p> <p>働き方改革について、変形労働時間制という制度を聞いたことがあるが、衆議院がとおり、この後参議院でとおると、来年度には県で条例を作るということになるそうである。先日、あいさつ運動で各校に行ったが、先生方は8時からの出勤時間に対して、7時半には出勤しているというのが実情である。朝夕の時間外勤務が当たり前になっている。行方市は大きな市ではないので、変形労働時間制が導入されるかはわからないが、働く人を見てあげることが大事だと思う。女性で子どもがいれば、朝は出勤時間までに子どもを起こして、学校や保育園等に送り出し、夜は子どものお腹が空いてしまうので、6時~7時くらいには帰宅して、夕飯を作らなければならない。そういった部分を考慮し、男性の先生も奥様に協力してやっていかなければ、共働きは難しい。以前の教員には、家庭を顧みず教育するという考えがあったが、今は家庭も大事するという考えが主流であるので、市や教育委員会が中心となって、働き方改革を進めていただきたい。ただし、子どもの学習時間や学力は担保されなければならないので、すでに取り組みされているようだが、できるところは大胆に省き、担任業務で多忙なため事務的な部分で人手が必要であれば、臨時職員などを配置し、図書室関係で仕事があるのであれば、ボランティアを無料で配置するなどして対応をお願いする。</p> <p>学校の先生は、子どもに対して最も丁寧でなければならない。事務作業や応接対応で準備時間を奪われて授業するのと、子どものために入念に準備をして授業するのでは、全く異なる。違いは子ども達がよくわかっているだろう。先生方に行方市に異動したいと思ってもらえるよう、自分の家庭と教育のどちらも大切にできるような環境を作ってほしい。</p>
鈴木市長	<p>現在行方市の学校では、詰め襟とセーラー服のところもあり茨城県が LGBT の条例化を行い、また、制服をブレザー化して選択できるよう勧めている自治体もある中、行方市の学校現場でそのような声があるのであれば、実状を把握し、今後、変えていくことも考えなければならないだろう。ジャージが男女同じであれば、制服も同じで良いのではないか。今後、そのような声があった場合に、教育現場としてどのように受け入れていくのかを検討しなければならない。いろいろな立場やタイミングで考えていただければと思う。制服を変えたい等の声に対して予算が必要となれば、市としては前向きに考えたいと思っている。</p>
横田教育長	<p>現在、制服を変更する予定はないが、今後そのような声があった場合には、対応を考えていかなければならない。学生服を変更するとなると、保護者との間で制服改定委員会を立ち上げたのちに、市の業者とも協議して、いつから変更できるのか</p>

出沼課長補佐	<p>などを検討していく必要があるだろう。</p> <p>参考までに、麻生中学校の制服選定の際に携わっていたが、その際は検討委員会ではなく、入学予定の小学校 6 年生及び中学 1, 2 年生、保護者に現物を見てもらい投票で決定したという経緯がある。統合委員会を作りながら、制服改正委員会を設置していたが、やはり、地元の業者さんのモデルチェンジや取引する業者や卸の方との関係もあり、調整にはお金を要したため苦心した。</p>
邊田委員	<p>冬の寒さから言えば、女子生徒のスカートはとても辛そうなので、選択肢は必要である。</p>
滝委員	<p>LGBT という言葉が出る以前にも、スカートを嫌がる素振りをする子や男子でもトイレで着替えをする子などがいたが、当時は LGBT という認識はなく、当人も理解していなかったように思う。今後は、ユニセックスの方向に学校の教材や認識を持っていくことを念頭に置いて進めていくべきだと思う。制服ばかりではなく、女子は赤やピンク、男子は黒や青といった概念を少しずつなくせるような流れにしていく必要がある。</p>
鈴木市長	<p>働き方改革については、ICT 化が進んでおり、今後はシステムをまとめて、これまで手作業で行っていた部分を ICT 化していきたいと考えているので、予算確保の調整をしていきたい。そのための前段として、調査は必要であるので、データ化についてご協力をお願いしたい。</p>

4. その他

特になし

5. 閉 会

宮内部長から開会の宣言がなされました。